

わたしたちの人権 122

だれもが人間として生きていくうえで 侵すことのできない当然の権利

これが『人権』です

「同和」問題とは、日本固有の部落差別によって様々に引き起こされる社会問題です。

今回、なぜ部落差別が続いているのか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

なぜ、現在まで部落差別が続いているのですか？

第一に、1871（明治4）年に明治政府はいわゆる「解放令」を發布し、江戸時代の身分制度は法律や制度の上では廃止されたものの、翌年作成された「王申（じんしん）戸籍（こせき）」には依然として差別呼称が記載されていました。これが1968（昭和43）年に国が閲覧禁止通達を出すまで、差別に利用されてきたこと。

第二に、明治政府が、被差別部落の人々により広く安定した職業に就くことを保障する具体的な施策がなされず、厳しい差別と貧困の中で、社会的地位の向上を阻まれてきたこと。

〔熊本県人権教育研究協議会「21世紀 人権の世紀を担うあなたに」より抜粋〕

第三に、学校教育については現憲法で義務教育無償が規定されているにもかかわらず、1960年代に被差別部落の人々を中心とした闘いによって教科書が無償となるまで、差別と貧困により、学校教育を受けられなかった人が非常に多かったこと。

第四に、日本社会は近代的な市民社会の性格を求めつつも、社会のいたるところに封建的な「家」意識に基づく家柄、格式を重んずる考え方が残り、上下関係や支配・服従の関係を大切にしてきたこと。

第五に、日本人の精神風土の中に、個人の自由意志を基盤に行動するのではなく、伝統や習慣に促われたり、昔ながらの迷信や女性軽視などの不合理な偏見を無批判に受け入れてしまう風潮が根強く残っていること。

このような、社会、経済、文化などの所要因が、「同和」問題を現在まで未解決のまま温存させてきたといえます。

第20回 5.23差別をなくす山都地区集会

期日：2015年5月23日（土曜日）午前8時45分～
場所：矢部中学校体育館

日程	8:45～	太鼓アトラクション
	9:00～	開 会
		主催者・来賓挨拶
		問題提起／決意表明／集会宣言
		スローガン採択
	11:00	閉 会



第19回5.23差別をなくす山都地区集会の様子

21世紀は「人権の世紀」

21世紀は、「人権の世紀」と言われますが、だまっ
てじっとしては人権の世紀にはなりません。
まずは、一人ひとりが差別をなくすために立ち上がる
ことです。

人は誰も仲間はずしにされたり、いじめられたり、
差別されたりたくはありません。それなのに、残念
ながら差別はまだあります。

みんなが立ち上げれば、絶対に差別をなくすことが
できます。

そのために、部落差別をはじめ、いじめや仲間はず
しなどのあらゆる差別をなくす、この「5・23差別
をなくす山都地区集会」にみんなでいっしょに参加し
ましょう。

書道

寒巖如削鐵 凡木未堪依獨
有梅花冷疎點翠微

和光教室書道部の 佐野八重子さん（川口）作

季節のうた

馬見原酔山会

県境と越え園児らの土筆つみ	長谷野澄博
貫禄の老大木や花やさし	畑野フミヨ
採りたての春子の並ぶ新聞紙	工藤美智子
やまなみの会「山脈」	
船から船島から島へ飛んで春	草樹 萌
黄砂ふら阿蘇の噴火とかさなりて	今村 芳子
梅開くほどに癒えゆく思ひして	赤澤 富美子
初雪の重みに耐えて南天は難松うかにすくと立てり	古閑 比奈子
八十路坂登ら夫の背押しつも今年は孫に染しみのあり	山下 弘子
一年の計は元旦健康と家庭円満仕事も趣味も	本田 七郎

通潤句会

山の田の畝に重たき春の泥
白銀の峰光りつつ春立ちぬ
若芽溢れ田舎ぐらしの豊かなり

清和短歌会

若き日の記帳を見れば
そのペンの力強さが今は懐かし
生きて行く日々を重ねを語りつつ
娘は涙ぐみ昼の月視ら
ハイヒールの音を刻みてたおやかに
乙女は去りぬ朝のラッシュを

交通標語

交通安全で みんなニコニコ 元気な子
田中里奈（中島小学校3年）
いのへらい その油断から 大事故に
木村保奈美（矢部高校1年）

山都町の人口（平成27年3月31日現在）

男	7,906人（-47）
女	8,494人（-44）
計	16,400人（-91）
世帯	6,650戸（-7）

※（ ）は前月比 ※最高齢は106歳（女性1人）
※平成27年3月の出生者数 7人 ※平成27年3月の死亡者数 23人

山都町の人口（平成27年4月30日現在）

男	7,895人（-11）
女	8,481人（-13）
計	16,376人（-24）
世帯	6,665戸（+15）

※（ ）は前月比 ※最高齢は106歳（女性1人）
※平成27年4月の出生者数 5人 ※平成27年4月の死亡者数 21人

編集後記

4月の異動により広報の担当を離れることとなりました。2年前に担当を言い渡された事がつい先日のようにです。当時はカメラの使い方は分からず、文章作りなどしたことも無かったため、すぐ落ち込みました。それでも取材先などで、「広報紙いつも見てるよ」「大変だろうけど頑張ってね。」と多くの励ましを頂き、子どもたちから、「あいつもカメラのおじちゃんだ。」などの元気な声をかけてもらい、一人ではなく皆さんと一緒に頑張ることが出来ました。担当時に取材先でいつも思っていたことは、「この担当でなければ、この人とは出会ったことは絶対無かったな。」ということ。この貴重な2年間で出来た人脈を、これから先の仕事の中で生かしていければと思います。新しい部署でも頑張っていきます。短い間でしが大変お世話になりました。また、これからよろしくお願いいたします。④

4月の異動に伴い、広報担当をさせていただくことになりました。なにもかもが初めてのことになると思うとすごく不安です。山都町に住んでから4年目になります。何度か取材に行ってみました。恥ずかしいことに初めて行く地域がまだまだたくさんあります。広報担当になったことでもっとたくさんさんの地域に行き、たくさんさんの人に出会い、たくさんの人に知ってもらえるように頑張りたいと思います。（椎木）